

「祭司」とは、神さまと人との間に立つ聖職者のことです。神道なら神主、仏教なら僧侶だと思ってください。

しかし、現在のキリスト教で礼拝をする人を、祭司とは呼びません。もともと祭司は、旧約聖書の時代に神殿の聖所で神さまに奉仕をしていました。イスラエルの人々と神さまとの仲立ちをするために、供え物をささげ、儀式をつかさどっていました。また、神さまのみ心を問うこともありました。

祭司になるのはレビ族の人々で、祭司長や大祭司といった階級もありました。イエス様が逮捕されたときの大祭司はカイアファですが、彼は王と同等の権限を持っていたと言われています。

一般の祭司は、聖所内の前の場所で、犠牲をささげていました。その奥にある至聖所には、大祭司のみが年に一度だけ入り、罪の贖いのための犠牲をささげていました。

しかしイエス様は、十字架につけられることで、その血による贖いを全人類に与えました。神さまから離れていた人間を、神さまに近づく者としてくださったのです。

イエス様が息を引き取ったとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂けました。これは大祭司だけが年に一回入って、人々のために罪の贖いを祈っていた至聖所がもはや必要なくなったことを意味します。

わたしたちはイエス様によって、神さまと共に歩むものとされました。神さまと自分たちとの間にイエス様がいてくれれば、それで十分です。特別な祭司はもういません。

わたしたち全員が、イエス様に招かれた祭司なのです。

今回は「再臨」です。楽しみに。



「ノアの献祭」  
ヤコポ・パッサーノ

(1510～1592年)

同じようにキリストも、大祭司となる栄誉を御自分で得たのではなく、「あなたはわたしの子、わたしは今日、あなたを産んだ」と言われた方が、それをお与えになったのです。

(ヘブライ人への手紙 5章5節)

